

離床センサーフローチャートの作成と使用基準統一への取り組み
～離床センサー使用の実態調査～
朝倉医師会病院 5階東病棟
○平山美加 池田光臣 桑野美佳 轟田紀子 林利奈

【目的】

認知能力低下や加齢に伴う筋力低下から転倒転落リスクがあると判断した患者に対して離床センサー(以下、センサーとする)を使用し転倒転落予防を行っている。しかし、当院ではセンサー選択基準が無く、当病棟での使用開始時や開始後のアセスメント及び評価の方法が各スタッフで異なっている現状がある。

そこで、転倒転落予防におけるセンサー使用の実態を調査し、フローチャートの作成を行うことで、より効果的で安全なセンサーの選択・解除が出来るのではないかと考えた。

【方法】

- 1) センサーフローチャートの作成。
- 2) 5階東病棟看護師 20名を対象にフローチャート使用前後でアンケート調査。
- 3) 期間を 2018年8月1日から 2018年10月1日とし、入院時に転倒転落アセスメントスコア危険度Ⅱ以上の患者を対象にフローチャートを使用。

【結果】

フローチャート使用前後のアンケートにて、「使用するセンサーに悩んだ事がある」「センサー使用が適応するのか悩んだことがある」「業務を続けていく上でセンサーが必要ない患者に使用され続けていると感じた事がある」で『そうだ』の回答は前後共に 25%で『やややそうだ』の回答も 65~75%と比較しても明らかな変化は認められなかった。

「センサー使用に転倒転落アセスメントスコアシートを活用出来ている」また「センサー使用時にアセスメントを行い、カンファレンスが出来ているか」の項目に対して『やややそうだ』がフローチャート使用前は 10%であったが、使用後は 42.84%であった。

「今回使用したフローチャートは活用しやすかったか」の項目に対しては『そうだ』で 14.28%『やややそうだ』では 71.4%、『やややそうでない』が 14.28%の回答結果となった。

【考察】

今回、当病棟内でセンサー使用基準を作成・導入し、病棟スタッフの 85.68%が「活用しやすかった」と評価している。これは使用基準を可視化したことでセンサー選択や解除に対する働きかけが出来たと考える。また、フローチャートを導入したことで、センサー使用開始や解除についてのカンファレンス実施につながったと考える。

フローチャートを使用したにも関わらず、離床センサー選択と使用に対する悩みが改善出来なかった要因として第一にフローチャートの説明がスタッフに対して十分に出来ず、使用するタイミングや方法が周知出来ていなかったこと。第二に選択肢を簡易化し、活用する際に可視化しやすい状態を心がけたため汎用性を無くしてしまったことが挙げられる。

しかしフローチャートを用いることでセンサーを安全により効果的に使用できたのではないかと考える。今後は、安全を重視し患者の個別性に応じたセンサーを選択・解除を行う指標として、フローチャートを見直し改善を継続していく必要がある。